

平成28年度 事務事業評価シート

事務事業名	東京藝術大学との連携					所管	文化産業観光部 文化振興課	
	行政計画	事業NO.	62	計画事業名	東京藝術大学との地域連携事業の推進	事業の開始・終了年度		
事務事業の概要	長期総合計画体系	[基本目標] I-3. 文化が息づく豊かな生活の創出					[事業開始] 平成20年度	
		[小 柱] (4)文化に親しむ環境づくり					[終了予定] - 年度	
		[施 策] ①文化に触れる機会の充実						
根拠法令等	その他	[法令等名]	東京都台東区と国立大学法人東京藝術大学との連携に関する協定書					
事業対象	東京藝術大学及び区民をはじめ広く一般							
事業目的	東京藝術大学の有する芸術・文化に関する高度な知見を活用し連携事業を展開することで、地域社会の芸術、文化、教育、まちづくり、産業等の広範な分野での振興を図る。							
事業内容	台東区・東京藝術大学連携協議会を開催し、連携事業の推進を図る。 平成22年度から平成24年度に実施したGTS観光アートプロジェクト作品を管理する。 また、GTS観光アートを巡るフォトラリーやワークショップを実施して、GTS観光アートをPRするとともに、区民が芸術・文化に触れる機会を提供する。							
委託の有無	一部委託	委託内容	GTS作品の管理委託。PRイベント参加記念品の制作委託。					
補助金の有無	なし		ワークショップ実施委託。GTSパネル展委託。					
事務事業の実績	種 別	指標の名称	(単位)	目標値 (29年度)	25年度	26年度	27年度	
	活動指標	GTS観光アートラインPR事業	回	3	3	3	3	
	成果指標	GTS観光アートラインPR事業参加者数	人	1,000	773	727	1,171	
	決算額 (単位：千円)					3,677	3,421	3,146
	事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト(人件費など)				5,965	3,401	3,208
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)				3,678	3,421	3,147
		その他のコスト(扶助費・補助費など)				0	0	0
		総経費				9,643	6,822	6,355
	財源項目 (単位：千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)				0	0	0
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)				0	0	0
一般財源(区負担額)				9,643	6,822	6,355		
前回評価から改善した事項	東京藝術大学及び墨田区と協議しながらPR事業を行い、参加記念品を、東京藝術大学出身の人気デザイナーが手掛けた品と、区内各所を周遊できるよう台東区立施設4館共通入館券にするなど工夫を施し、27年度は目標値を上回る人が参加した。							
評価の視点	評価	評価の理由						
	必要性	3	地域社会の芸術、文化、教育、まちづくり、産業の振興を図っていくためには、芸術・文化に関する高度な知見を有する東京藝術大学と連携していくことが必要である。					
	効率性	3	区や東京藝術大学の取り組みなどの情報・意見交換をし、芸術・文化に関わる幅広い活動の協議をする場である連携協議会の開催は有意義である。また、決算額は減少している一方、27年度のPR事業参加者が初めて1000人を超えるなど、効率性に一定の改善が見られる。					
	手段の適切性	3	区の様々な分野での芸術・文化の振興を図るため、各所管課で実施している文化事業及び東京藝術大学との連携事業を集約し、また連携協議会で協議するなど、東京藝術大学の芸術・文化に関する高度な知見を活用することは効果的である。					
	目的達成度	4	フォトラリーの参加者が大きく伸びるなど、GTS観光アートラインのPR向上につながっている。また、フォトラリー参加者の8割近くを40代以上が占める一方、ワークショップでは小学生とその保護者を対象とし、幅広い世代が芸術・文化に触れる機会を提供できている。					
[評価の理由] (区民生活への影響を十分考慮すること)					評価結果	今後の方向性	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了	
今後も連携協議会の場を有効に活用し、東京藝術大学の有する芸術・文化に関する高度な知見を活かした連携事業を実施していく。また、区民が芸術・文化に触れる機会を提供できるよう、GTS観光アートプロジェクト作品の管理・PR事業を継続して実施していくことが必要である。						維持		